

日本語学習指導案

授業改善の視点

紹介文を書く過程で短冊を活用し、互いに伝え合う活動を取り入れたことは、文の内容や構成を考え、まとまりのある紹介文を書くために有効であったか。

1 教材 自分の考えを表現しよう「母国の学校について、日本の友だちに紹介をしよう」

2 本教材に関わる生徒の様子

[Aさん]

〈話す〉(省略)

〈読む〉(省略)

〈書く〉(省略)

〈聴く〉(省略)

[Bさん]

(省略)

3 教材の目標

紹介文を書くために必要な言葉や文法を習得し、相手に伝わる文章を記述できるようにする。

4 これまでの学習の経緯

本校の国際教室では、外国人生徒に対して、それぞれの日本語力に応じて1週間当たり4～17時間取り出し指導を実施している。実技教科を中心に在籍学級で学習することが多く、以前はテストやワークシートの記述欄も未記入で、各教科担当の教師は評価に困ることがあった。そこで本校では、来日したばかりで日本語が分からない生徒を対象に、バイリンガル教員や日本語指導助手が、課題を翻訳し、母語で回答させたものを再度日本語に直して、評価の参考にするようにした。自分で文章が書けるようになった生徒には、題材を翻訳して問われていることを母語で理解させ、身に付けた日本語で文章を書くように指導した。さらに日本語の習得が進んだ生徒は、学級で使用している生活記録ノートにその日の出来事やその時の気持ちなどを書いて提出するよう指導し、担任に気持ちや考えを伝えるようにした。

今年度は、「書く力を身に付けたい生徒」を対象に、週に1時間自分の思いや考えを表現する活動を実施してきた。自分自身のことや身近なことをテーマとして取り上げ、「伝えたい」「表現したい」という気持ちを大切にしたい。本校で取り出し指導を行っている外国人生徒全員が高校進学を希望している。その実態を受け、国際教室では、高校入試での作文や面接に対応できる表現力を身に付けさせることを目標としている。自分の思いや考えを母語であろうと日本語であろうと言葉で表現することは、とても有意義なことであり、目的をもたせた活動を設定することで、表現の必要性を感じられるようにしたいと考える。

5 指導計画

	学習のねらい（○）と主な学習活動と教師の支援（・）
1	<p>○母国の学校について、日本の友だちに伝えたい内容を考え、自分の思いを整理して表現することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された課題を見て、書く内容の中で、意味が分からない日本語を国語辞典で調べる。それでも分からない場合は、バイリンガル教員や日本語指導員が母語で説明する。 ・マッピング形式で伝えたいことを書き出す。キーワードを日本語で書くことが難しい場合は、母語で書いたり、絵を描いたりさせることで、考えを広げられるよう支援する。 ・なかなか書き始められない場合には、教師と対話をするすることで、書くことを見つけられるようにする。
2 (本時)	<p>○相手に伝える内容を取捨選択し、自分の思いや考えを整理して表現することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードの中から伝えたいことを選んで文章を記述する。 ・短冊に書いた文章を伝え合うことで、新たな視点や表現方法に気づかせるようにする。
3	<p>○作成したメモをもとに、相手を意識した文章を記述できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙の使い方を確認する。 ・正しい文字や言葉、文法を使い、文章を記述する。 ・母語で書いた「母国の友だちに日本のことを紹介しよう（既習）」の文章を参考にして、「始め」「中」「終わり」の文章を日本語で書けるようにする。 ・書きあがった文章を読み返し、自分の考えをより明確にするために、個別の学習目標に沿って推敲する。 ・書きあがった文章を読み合い、互いのよさを認め合う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習目標に沿って自分の表現の良くなった点を見つけ、今後の作文に生かせるようにする。

5 個別の学習目標

[Aさん]

自分の意見や考えを、習った漢字を交えて正しい文章で表現する。

[Bさん]

自分の意見や考えを、助詞や接続詞に気をつけて正しい文章で表現する。

6 本時の学習

(1) ねらい

互いに伝え合う活動を通して、短冊に書いた自分の思いや考えを整理したり情報を追加したりして、紹介文の構成を考えることができる。

(2) 指導方針

- ・マッピングシートの中から書きたいことを選んで短冊に文章を書き出すことで、文の内容や構成を練り直すことができるようにする。
- ・母国に対する思いを尊重して聞くことで、伝えたいことを自由に表現できるようにする。
- ・主体性を養い自学自習ができることを目指すため、分からない言葉は辞書で調べられるよう支援する。

(3) 人権教育の視点

母国や日本の文化の違いを受け入れ、それを見つめ直すことで自尊感情を高め、学校生活を通して共に生きる喜びを感じさせる。(感性)

(4) 展開

準備 言葉カード、短冊型用紙、辞書

学習活動	時間	教師の支援及び留意点	評価項目
1 本時のめあてをつかむ。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「母国の学校紹介文」を書く流れを確認することで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・前時に記述したマッピングシートを読み返し、本時のめあてにつなげる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて</p> <p>日本の友だちに向けた「母国の学校紹介文」のアイデアを短冊に書こう。</p> </div>			
<p>2 めあてを追求するために個人で考える。</p> <p>○書き出したキーワードをもとに、短冊に文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングシートの中から、書きたい内容を整理して、文の構成を考える。 ・日本語が分からない時は、辞書を使って調べる。 	30	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が短冊の使い方を示すことで、学習への見通しを持たせる。 ・「いつ」「どこ」「だれ」「なぜ」などを意識させるために、それぞれ短冊に分けて記述させる。書き加えたい内容があれば、新たに追加してもよいことを伝える。 ・読み手（聞き手）である日本の友だちを意識させ、日本と母国を対比して書くと伝わりやすくなることを確認する。 ・より内容を深めさせたいところは、教師がさらに質問して追加する情報を引き出す。 ・教師が簡単な日本語で質問に答えたり、日本語指導員が母語でサポートしたりすることで、自信をもって文章を記述できるようにする。 	
<p>3 他の生徒との交流で、新たな気づきをもつ。</p> <p>○短冊に書いた文章をつなぎ合わせて、教師と友だちに伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識することによって伝えたい内容を明確にし、よりわかりやすい伝え方を考える。 ・紹介文に追加したい情報を書き加える。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの短冊を伝え合う（読む・話す・聞く）ことによって、新たな視点や表現方法に気づかせる。 ・生徒の発表は肯定的に聞き、工夫した点をほめて書く意欲につなげるようにする。 ・聞き手の生徒と教師が、より詳しく知りたいことを質問して、聞き手が興味を示した 	<p>互いに文章を伝え合うことで、伝えたい内容を整理したり情報を追加したりすることができる。</p> <p>(観察)</p>

		内容に気づかせることで、紹介文に追加したい情報を書き加えられるようにする。	
4 本時のまとめ・振り返りをする。 ○友だちの文章を読んだり、内容を聞いたりして、気づいたことを発表する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が気づきを共有できるように、発表したことをまとめて板書する。 気づいたことを発表できない時は、母国と共通していて共感したら青色のカード、母国と異なっていて興味深いと思ったら赤色のカードを、黒板に貼らせて、感じたことを伝え合えるようにする。 次時は、本時に書いた文章を組み合わせ、紹介文の清書をするように伝える。 	

座席表

